

みずほCustomer Desk Report 2019/08/01 号(As of 2019/07/31)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	108.64
TKY 9:00AM	108.57	1.1157	121.12	GBP/USD	1.2154
SYD-NY High	109.00	1.1162	121.18	AUD/USD	0.6874
SYD-NY Low	108.49	1.1060	120.36		0.6899
NY 5:00 PM	108.76	1.1070	120.46		0.6832
					0.6848
NY DOW	26,864.27	▲ 333.75	日本2年債	-0.2100	1.00bp
NASDAQ	8,175.42	▲ 98.19	日本10年債	-0.1600	▲1.00bp
S&P	2,980.38	▲ 32.80	米国2年債	1.8661	1.92bp
日経平均	21,521.53	▲ 187.78	米国5年債	1.8215	▲1.97bp
TOPIX	1,565.14	▲ 10.44	米国10年債	2.0066	▲5.22bp
シカゴ先物	21,375	▲ 110	独10年債	-0.4445	▲4.35bp
ロンドンFT	7,586.78	▲ 59.99	英10年債	0.6075	▲2.55bp
DAX	12,189.04	41.80	豪10年債	1.2005	▲0.50bp
ハンセン指数	27,777.75	▲ 368.75	USDJPY 1M Vol	5.06	▲0.39%
上海総合	2,932.51	▲ 19.83	USDJPY 3M Vol	5.80	▲0.14%
NY金	1,437.80	▲ 4.00	USDJPY 6M Vol	6.08	▲0.14%
WTI	58.58	0.53	USDJPY 1M 25RR	-1.03	Yen Call Over
CRB指数	178.53	0.18	EURJPY 3M Vol	6.53	0.16%
ドルインデックス	98.58	0.53	EURJPY 6M Vol	6.78	0.06%

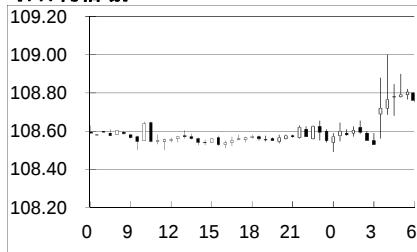
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月31日	08:01	英 GfK消費者信頼感	7月 -11	-13
	10:00	中 製造業PMI/非製造業PMI	7月 49.7/53.7	49.6/54.0
	10:30	豪 CPI(前期比/前年比)	2Q 0.6%/1.6%	0.5%/1.5%
	18:00	欧 GDP(前期比/前年比)	2Q A 0.2%/1.1%	0.2%/1.0%
	18:00	欧 CPIコア/CPI予想(前年比)	7月 0.9%/1.1%	1.0%/1.1%
	21:15	米 ADP雇用統計	7月 156k	150k
8月1日	03:00	米 FOMC政策金利	31-Jul 2.25%-2.00%	2.25%-2.00%
	03:30	米 バウエル議長	「長期にわたる一連の利下げの始まりではない」	

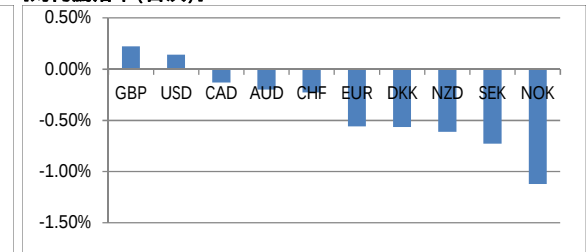
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月1日	16:55	独 マーケット製造業PMI・確報	7月 43.1	43.1
	21:30	米 新規失業保険申請件数	27-Jul 214k	206k
	22:45	米 マーケット製造業PMI・確報	7月 50.0	50.0
	23:00	米 ISM製造業景況指数	7月 52.0	51.7
	23:00	米 建設支出(前月比)	6月 0.3%	-0.8%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	108.30-109.30	1.1030-1.1120	119.80-121.00

【マーケットインプレッション】

昨日のドル円は小幅上昇。米第2四半期雇用コストが市場予想を下回るとドル円は108.50円台まで下落、株式市場の軟調な推移に伴い一時108.49円まで下落した。注目のFOMCは市場予想通り25bpの利下げとなったものの、パウエルFRB議長が今回の利下げを「サイクル中盤での政策調整」と説明したことが市場の期待ほどハト派寄りでなかったと受け止められ、一時109.00円まで上昇した。その後はドル売り意欲にドル円は108.60円台まで反落した。本日のドル円は前日の流れを引きついで上昇トレンドを予想。本日は英中銀金融政策委員会が予定されており、政策金利0.75%の据え置きが市場の予想となっているが、サプライズには警戒。NY時間に発表される米7月ISM製造業景気指数にも注目したい。

東京	東京時間のドル円は108.57レベルでオープン。月末の実需70-もあり仲値にかけて108.65まで上昇したものの買いは続かず。FOMCを控えて様子見姿勢が強く、値幅15銭と狭いレンジでの推移に終始し108.53レベルで海外に渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.53レベルでオープン。FOMCを控えて様子見姿勢が続く。値幅7銭と極狭いレンジで推移し、108.57レベルでNYへ渡った。ポンドドルは1.2158レベルでオープン。目新しい材料に欠けるなか、横ばい推移に終始し、1.2175レベルでNYに渡った。(ロンドン・ルブリ - 00531 444 179 マクルヒル)
ニューヨーク	米中通商協議が終了し、次回は9月に再開されることになったものの、本日のFOMC結果発表を控え、海外市場のドル円は108.50-65での狭いレンジでの推移が続く。108.57レベルでNYオープン。朝方は米7月ADP雇用統計が予想を上回り、前回分も上方修正されたことから108.65まで上昇するが、続いて発表の第2四半期雇用コストが予想を下回り108.55まで反落し、その後もフラッシュで推移していた株式市場がマイナス圏へ下落する展開に、108.49まで下落する。注目のFOMCでは、政策金利を25bp引き下げ、2.00~2.25%にし、声明文では利下げの論拠は世界情勢とインフレの抑制であるとし、バランスシート縮小を2ヶ月早い18/1に終了することを発表し、見通しについては先行きへの不確実性がある中、適切に行動するとし、ジョージ・カザンチ連銀総裁とローゼングレン・ボストン連銀総裁は据え置きを主張が明らかになった。市場では極めて少数ではあるものの50bp利下げが期待されていたことや、利下げの始まりではなく、将来の景気悪化回避の為に保険のような利下げとの見方からドル円は108.80まで上昇する。その後戻り売りに108.61まで反落するが、パウエル議長の記者会見で「利下げは貿易や、世界的な見通しを背景にしたタリフリスクを回避する為」「これは長い利下げサイクルの始まりではないが、再利下げの可能性はある」とし、タカ派な利下げとの見方にドル円は瞬時109.00まで上昇する。このレベルではドル売り意欲もあり、クロス円の下落も加わり、108.68まで反落する。終盤に掛けてはボラティリティ調整中心の値動きとなり、108.76レベルでクロスした。一方、ユーロドルは1.1150レベルでNYオープン。朝方はFOMCを控え1.1120まで下落する。午後はFOMC結果を受けたドル買いに1.1060まで下落し、1.1070レベルでクロスした。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:小笠原・玉井